

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171600234
法人名	医療法人 至慈会
事業所名	グループホーム ほのぼの
所在地	佐賀県杵島郡白石町大字戸ヶ里1831番地18 (電話) 0954-65-3129

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月4日	評価確定日	平成 21年5月8日

【情報提供票より】(平成21年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	11.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~36,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年1月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 87.6 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人至慈会 高島病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心部にあり、母体医療法人が経営する病院と介護老人保健施設に隣接して建てられている。手入れの行き届いた庭にはベンチが備えられ、家族や地域の人たちが訪問しやすい、開放的な造りになっている。室内に入ると、吹き抜けのある廊下は明るく、天井、扉等に木材がたくさん使われていて、落ち着いた和風の雰囲気が漂うホームである。職員は、笑顔のあるあたたかなサービスを心がけ、家族との交流も大切にされている。また、法人内での協力体制があるため、助言を受けたり、身体の変化にもすぐに対応できることが、家族の安心感につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を活かして課題への検討や取り組みをしているが、地域との付き合い等、継続検討中の課題もある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を通じて振り返りをし、改善に向けた検討をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族代表にも参加してもらい、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。意見は協議しながら実行してサービスの向上につなげているが、参加者が固定していて、近隣の人が含まれていない。参加者に、近隣、地元の人等、その時期の行事に応じた方に参加してもらい、より多様な意見を聞きながらサービスの向上につなげられることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時に苦情相談機関や方法を家族に説明し、運営推進会議や行事等の機会に家族からの意見を聞いて、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの行事へ参加してもらい付き合いはしているが、地域の行事へ積極的に出かけていく等の交流はまだできていない。入居者が友人や知人に会える機会にもつながるので、地元の行事の情報を集めて、積極的に参加する機会をつくることが望まれる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の人たちとのふれあいを大切にするを設立当初から考え、「常にその人らしさを大切にし個人の尊厳を基本としたケアサービスを提供します」と理念を掲げている。また、年度ごとに各棟ごとの目標を決めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員ミーティング等の中で共有し、業務の場面場面でも互いに確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事へ参加してもらつつきあいはしているが、地域の行事へ積極的に出かけていく等の交流はまだできていない。	○	入居者が友人や知人に会える機会にもつながるので、地元の行事の情報を集めて、積極的に参加する機会をつくることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通じて振り返りをし、外部評価を活かして日々改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	家族代表にも参加してもらい、2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。意見は協議しながら実行してサービスの向上につなげているが、参加者が固定していて、近隣の人が含まれていない。	○	参加者に、近隣地元の人等、その時々々の行事に応じて参加してもらうことで、より多様な意見を聞きながらサービスの向上につなげられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村には適宜に足を運び、ホームの状況を伝えたりして連携を図り、介護者教室での研修を依頼されたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問はほとんどの人があり、その時に身体・精神・生活面での報告をする他、行事の案内状に個別記入欄を設けて近況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談機関や方法を家族に説明し、運営推進会議や行事等の機会に家族からの意見を聞いて、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代はあまりないが、ユニット間の職員の行き来を多くしたりして、利用者への異動のダメージを防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や外部の研修会に参加し、技術や知識を身につけ、ホーム内で共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事への参加交流の他、地域のグループホーム連携協議会を立ち上げ、事業者が抱えている問題を協議しながら、お互いに支えあい、盛り上げ合うように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたって、接触の機会を多く設け、「この家においても安心」という気持ちを持ってもらい、信頼関係を築けるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	漬物の漬け方、野菜の育て方、料理の味見等を教えてもらったりして、お互いに支えあう関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に入居者と話をし思いを聞きだし、表出できない場合は家族から聞き取るようにして、希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向を確認し、本人の生活歴を活かす等、職員のミーティングの中で話し合いをしながら検討をし、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを検討し、作成されている。また、病状の進行、心身の状態に変化があったときには、その都度状況に応じた計画を作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族同伴の外出や外泊時には、実施しても大丈夫かどうか状況をよく確認し、時々々の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院併設であり、いつでも医療を受けられるように支援している。また、必要な場合は専門医療機関につないで円滑に医療を受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、入居時に説明し、手当てが必要な時には、家族と担当医及び管理者が協議して方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	健康状態等の話を、他の人に聞かれないように配慮している。「慣れすぎず慣れ親しむ言葉がけ」に努め、信頼関係を築くようにしている。また、重要書類は事務所の鍵のかかるところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床時間等、入居者のペースで過ごせるように支援し、外出や散歩の希望を聞いたりして、その人らしく暮らせるように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は会話が弾み、入居者同士の助け合いも見られている。また、洗った食器が入っているかごをテーブルにおいて拭いたり、片づけをしたり、その人なりにできる手伝いをしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は決めているが、希望に応じて対応できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りや花生けの経験を活かしてもらったりして、役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や帰宅等の希望に添った外出、家族に付き添ってもらっての外出等への支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、灯りが点いたり、音が鳴ったり使い分けられるセンサーを取り付けて配慮をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上の防災訓練を行っており、地震や水害時の避難訓練や防止策も協議していこうとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取状況、水分摂取状況を記録し、きちんと確保できるように働きかけている。また、病院の医師や管理栄養士、言語聴覚士にもサポートしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房があり、こまめに音や光の調節もしている。要所に季節の飾りや花が置かれ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していた品々は持ち込んでもらえるように支援している。持ち込まれない入居者や模様替えができない場合にも、季節感が出るものを提供するようにして支援している。		